

## 1. 治水の現状と課題

河川整備計画の策定においては、基本方針である流域一貫の考えにもとづき、河川に関する砂防・ダム・河川・海岸などの諸計画が、流域の視点に立ち、互いに整合性を確保されながら策定する必要がある。

本圏域は、南北に長い流域で、下流側では日高山脈、上流側では十勝岳連峰を後背地に抱え、各地域における、地形・地質および川のなりたちや、過去の被害状況、改修状況等により、河川毎に河床を構成する礫や大雨時の出水状況・被害状況、土砂の移動状況等も異なることから、河川を構成するこれらの要素を総合的に判断し、関連する計画との連携を図りつつ適切な河川の整備計画策定を行うものとする。

### (1) 旧途別川

旧途別川は、北海道中川郡幕別町札内地区の東部の耕作地に源を発し、蛇行しながら耕作地を東方へと流下し、いなしべつがわ 稲士別川、とよおかがわ 豊岡川、イカンベツ川の支川を合わせ、猿別水門を経て猿別川に注ぐ流域面積36.4km<sup>2</sup>、流路延長9.5kmの一級河川である。

旧途別川の河川名は、アイヌ語のト・ペツ（沼・川）に由来するとの説がある（「北海道の川の名」<sup>※1</sup>より）。また、途別川の旧河道であることから川名に「旧」がつけられている。

旧途別川の地質は、砂・礫及び泥の氾濫原堆積物からなる。

流域の土地利用状況は、本川沿いや台地上で耕作されており、主に小麦、大豆、てん菜である。また、家畜用採草地としても利用されている。

かつて途別川は大きく蛇行しながら猿別川へと合流していたが、大正11年8月の未曾有の大洪水を契機に着工された「北海道第2期拓殖計画」における十勝川の改修工事による、昭和8年の途別川切替工事により直接十勝川へと流下させる水路が開削された。この水路が現在の途別川であり、残った旧河道が旧途別川である。昭和61年から平成8年にかけて、猿別川合流点から上流7.2km区間において、河川改修が実施されているが、抜本的な治水対策は行われていない。平成28年8月の台風10号では溢水により、床上浸水50戸と床下浸水19戸と227.0haの浸水被害が生じた。

このため、流下断面が不足している猿別川合流点より千住14号橋までの7.2km区間において、一定の計画に基づく河川改修を実施し、沿川における治水安全度を確保する必要がある。



▲猿別川合流点周辺の農地

表1-2 旧途別川における主な災害

年次	浸水面積 (ha)			浸水家屋 (棟)			被害原因
	農地	宅地	計	床下	床上	計	
S54.10	20.0		20.0				台風 20 号
S56.8	30.0		30.0		1	1	豪雨
S59.5.1-5	360.0	5.0	365.0		57	57	融雪
S63.11.23-26	-	1.0	1.0		1	1	豪雨
H28.8.30-31	196.0	31.0	227.0	19	50	69	台風 10 号



▲猿別川合流点上流の被災状況  
<平成28年8月>



▲農家住宅冠水（相川地区）  
<平成28年8月>



▲市街地冠水（猿別地区）  
<平成28年8月>

## (2) 茂発谷川

茂発谷川は、幕別町と帯広市との境界を走る主要道道豊頃糠内芽室線（62号）の北側約1km地点の明倫地区に発し、北流しながら、途中新和川などの支川を合わせ、根室本線南側にて猿別川に注ぐ流域面積34.8km<sup>2</sup>、流路延長15.5kmの一級河川である。

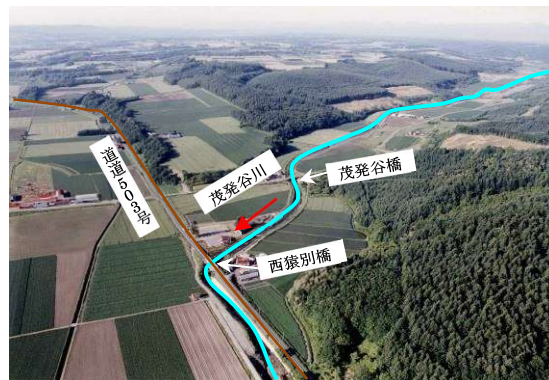
茂発谷川の河川名は、アイヌ語のモ・アチャ（小さい・おじさん）に関係するとの説もあるが、詳しい由来は不明である（「北海道の川の名」※1より）。

茂発谷川流域の地形・地質は、砂岩・シルト岩、礫岩などの第三系～第四系堆積岩からなる丘陵と、その上位に載る河岸段丘（砂礫層・ローム層等）、それらを浅く下刻した谷を埋積する、砂礫・砂～シルトなどの氾濫原堆積物からなる。

流域の土地利用状況は、本川沿いや台地上で耕作されており、主に畑作4品（小麦、馬鈴薯、てん菜、豆類）である。また、家畜用採草地としても利用されている。

茂発谷川は、昭和46年から昭和59年にかけて、猿別川との合流点から上流12.5km区間において、国による農業の排水事業が実施されているが、抜本的な治水対策は行われていない。平成10年9月には、豪雨による出水により河川が氾濫し、農地1.9haと家屋1戸が浸水した。また、平成14年10月の台風と平成24年5月の豪雨では、出水により河岸欠壊が発生している。平成28年8月の台風7号では溢水し、8.0haに浸水被害が生じ、翌平成29年9月の台風18号では、溢水により床下浸水1戸と6.3haの浸水被害が生じた。

このため、流下断面が不足している猿別川合流点より上流2.2km地点からホープランド橋までの1.6km区間において、一定の計画に基づく河川改修を実施し、沿川における治水安全度を確保する必要がある。



▲下流部（猿別地区）の農地

表1-3 茂発谷川における主な災害

年次	浸水面積 (ha)			浸水家屋 (棟)			被害原因
	農地	宅地	計	床下	床上	計	
H10.9.15-16	1.9	0.0	1.9	1	0	1	豪雨
H14.10	河岸欠壊						台風
H24.5	河岸欠壊						豪雨
H28.8.16-17	-	-	8.0	0	0	0	台風7号
H29.9.18	-	-	6.3	1	0	1	台風18号



▲茂発谷川第2号橋上流の河岸欠壊  
<平成10年9月16日>



▲ホープランド橋下流左岸の氾濫跡  
<平成14年10月>



▲茂発谷川の被災状況（字猿別地区）  
<平成28年8月>

### (3) 糠内川

糠内川は、更別村弘和付近の丘陵地にその源を発し、北流しながら、途中五位川などの支川を合わせ、幕別町字糠内市街地を貫流して猿別川に注ぐ流域面積48.0km<sup>2</sup>、流路延長18.8kmの一級河川である。

糠内川の河川名は、アイヌ語のヌカンナイ（小石川の意）に由来するとの説がある（「北海道の川の名」<sup>※1</sup>より）。

糠内川流域の地形・地質は、砂岩・シルト岩、礫岩などの第三系堆積岩からなる丘陵と、その上位に載る河岸段丘（砂礫層・ローム層等）、それらを浅く下刻した谷を埋積する、砂礫・砂～シルトなどの氾濫原堆積物からなる。最上流部右岸の第三系には局所的に火砕岩が挟在される。

流域の大部分は農地であり、下流域に糠内市街地が形成されている。

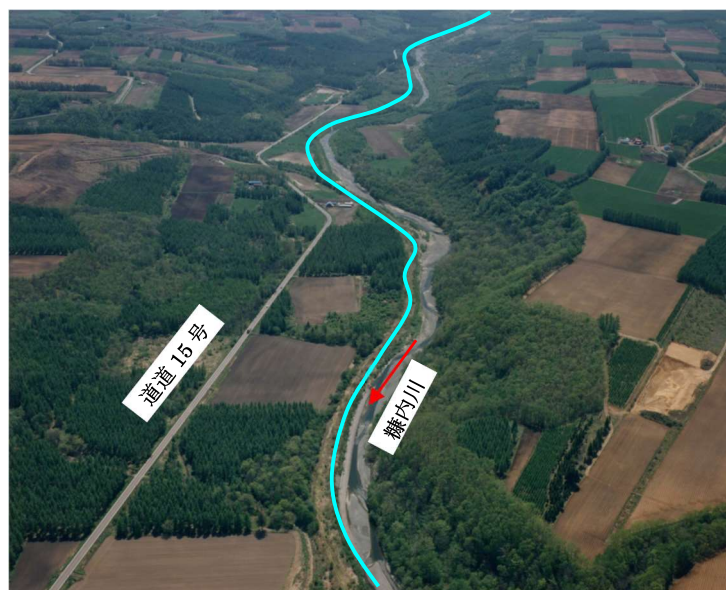
糠内川は、昭和39年から昭和47年にかけて、猿別川との合流点から中里川合流点までの5.8km区間で、また、平成7年から平成13年にかけては、上流部の観音橋から駒島8線橋までの4.1km区間において河川改修が行われた。

しかし、平成14年10月には、台風による出水により床上4戸、床下4戸の浸水被害が発生している。また、近年では、豪雨による出水により橋梁の桁下に迫る増水が幾度となく発生している。

このため、流下断面が不足する猿別川合流点より上流0.7km地点から中里橋下流までの4.6km区間において、一定の計画に基づく河川改修を実施し、沿川における治水安全度を確保する必要がある。

表 1-4 糠内川における主な災害

年 次	浸水面積 (ha)			浸水家屋 (棟)			被害原因
	農地	宅地	計	床下	床上	計	
S37.8.3	7.0	0.0	7.0	0	0	0	台風第9, 10号
S47.9.6	869.0	0.0	869.0	0	0	0	豪雨、台風20号
S63.11.23-26	3.5	0.1	3.6	10	10	20	波浪・暴風・豪雨
H14.10.1	0.0	1.6	1.6	4	4	8	台風20号



▲糠内川中流部



▲万代橋付近の増水状況  
<平成14年10月>



▲万代橋付近の増水状況  
<平成14年10月>

#### (4) サラベツ川

サラベツ川は、その源を更別村と中札内村、大樹町との町村界の丘陵地に発し、流路を北東にとり、更別村を流下して、猿別川に注ぐ流域面積 72.8km<sup>2</sup>、流路延長 25.3km の一級河川である。

サラベツ川の河川名は、アイヌ語のサル・ベツ（<sup>よしほら</sup>葭原の・川）に由来するという説がある（「北海道の川の名」※<sup>1</sup>より）。

サラベツ川流域の地形・地質は、広大な河岸段丘面（砂礫層・ローム層等）と、それらの表面を覆う砂〜シルトおよび砂礫などの河床堆積物からなる。

流域の大部分は農地であり、中流域に更別村市街地が形成されている。

サラベツ川は、昭和 16 年から昭和 31 年及び昭和 44 年から昭和 56 年にかけて、猿別川合流点から 17.0km 区間において、農業の排水事業により整備された。しかしながら、流下能力の不足により度々浸水被害を受け、平成 28 年 8 月の台風 10 号では浸水面積 14.5ha、床下浸水 4 戸の浸水被害を受けている。

このため、流下断面が不足する、更別橋下流端から帯広・広尾自動車道までの 1.1km 区間において、一定の計画に基づく河川改修を実施し、沿川における治水安全度を確保する必要がある。



▲サラベツ川と更別村市街地

表 1-5 サラベツ川における主な災害

年次	浸水面積 (ha)			浸水家屋 (棟)			被害原因
	農地	宅地	計	床下	床上	計	
S47.9.6	1,427	3.2	1,430.2	157	17	174	台風 20 号
H24.5.3-7	公共土木施設 (河川)						融雪
H24.11.6-10	公共土木施設 (河川)						豪雨
H28.8.30-31	14.5		14.5	4		4	台風 10 号



▲更別橋上流左岸側  
＜平成 28 年 8 月＞



▲更別橋上流右岸側  
＜平成 28 年 8 月＞

## (5) サッチャルベツ川

サッチャルベツ川は、その源を更別村と大樹町との町村界の丘陵地に発し、流路を北東にとり、更別村を流下して、猿別川に注ぐ流域面積 33.2km<sup>2</sup>、流路延長 19.2km の一級河川である。

サッチャルベツ川の河川名は、アイヌ語のサルチャルベツ（葭原よしはらの口の川の意）とサッチャルベツ（乾いた口の川の意）に由来するという説の他に、サツサルベツ（乾いた猿別川の意）に由来するとの説もある（「北海道の川の名」<sup>※1</sup>より）。

サッチャルベツ川流域の地形・地質は、広大な河岸段丘面（砂礫層・ローム層等）と、それらの表面を覆う砂～シルトおよび砂礫などの河床堆積物からなる。

流域の大部分は農地であり、中流域に更別村市街地が形成されている。

サッチャルベツ川は、もともと畑地を大きく蛇行しながら流下していたものを、畑地利用の効率化を図るため昭和 33 年から昭和 42 年にかけて農業の排水整備により直線化された。しかしながら、流下能力の不足により度々浸水被害を受け、昭和 56 年 8 月の台風 12 号では浸水面積 292.0ha、床下浸水 1 戸の浸水被害を受けている。そこで、平成 8 年より猿別川合流点から どうどうこうなんさらべつていしやじょうせん 道道更南更別停車場線 までの延長 12.4km 区間について河道の掘削などの抜本的な改修



▲サッチャルベツ川と更別村市街地

に着手し、平成 24 年までに下流 11.4km 区間について整備が完了しており、今後は残る上流 1.0km 区間において、河道掘削など河川改修を実施していく。また、平成 23 年 9 月には、改修区間よりも上流の村道東 5 号線付近において、台風による出水により道路冠水被害が発生している。

このため、流下断面が不足する昭和南橋上流から新清橋までの 1.0m 区間についても、一定の計画に基づく河川改修を実施し、沿川における治水安全度を確保する必要がある。

表 1-6 サッチャルベツ川における主な災害

年次	浸水面積 (ha)			浸水家屋 (棟)			被害原因
	農地	宅地	計	床下	床上	計	
S56.8.3-8.6	291.9	0.1	292.0	1	0	1	豪雨及び台風 12 号
H10.9.15-9.16	道路冠水						豪雨
H14.9.30-10.2	8.0	0.1	8.1	2	2	4	台風 21 号及び豪雨
H23.9.5-9.6	道路冠水						豪雨



▲更別村市街地の冠水被害状況  
＜昭和56年8月＞



▲更新橋上流約10m地点  
＜平成14年10月＞



▲村道東5号線の道路冠水状況  
＜平成23年9月＞

## (6) 古舞川

古舞川は、北海道帯広市以平町<sup>いたいら</sup>の耕作地にその源を発し、北流して幕別町に至り、栄川、古舞東川の支川を合わせ、町道古舞帯広線と並流し途別川に注ぐ流域面積 22.1km<sup>2</sup>、流路延長 11.2km の一級河川である。

古舞の地名の由来は、中央をフルコマップ川が流れることによるが、この川名はアイヌ語のフル・コマ・プ（丘・曲る・ものの意）によるとと思われる（「角川日本地名大辞典」<sup>※2</sup>より）。

古舞川流域の地形・地質は、丘陵部は第4紀洪積層の礫、砂互層、浮石質泥溶岩からなる段丘層群で、河川沿いは河川氾濫物の砂、礫、泥よりなる第4紀沖積層からなる。

流域の大部分は農地であるが、中流域に古舞集落が形成されている。

古舞川は、昭和 45 年から昭和 53 年にかけて、町道稔橋から 6.5km 区間において、国営明渠排水事業により整備され、その後平成 14 年に途別川合流点から稔橋の区間の改修工事が行われた。しかしながら、流下能力の不足により度々浸水被害を受け、平成 14 年 7 月及び平成 28 年 8 月の台風では浸水面積 1.0ha の浸水被害を受けている。

このため、流下断面が不足する道道新途別橋から大山橋までの 6.8km 区間において、一定の計画に基づく河川改修を実施し、沿川における治水安全度を確保する必要がある。



▲古舞川下流部の農地

表 1-7 古舞川における主な災害

年次	浸水面積 (ha)			浸水家屋 (棟)			被害原因
	農地	宅地	計	床下	床上	計	
H14. 7. 11	1.0		1.0				台風 6 号
H28. 8. 17	1.0		1.0				台風 7 号



▲稔橋上流左岸側  
<平成 14 年 7 月>



▲稔橋上流右岸側  
<平成 28 年 8 月>